

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名 常葉大学大学院初等教育高度実践研究科
	セミナー名：【NITS カフェ in 常葉】 飽くなき挑戦 ―多様な生き方に触れ、自らを問い直す―
	開催日時：令和2年10月28日 14時～16時30分 開催場所：常葉大学静岡草薙キャンパス 常葉大学センター 静岡県静岡市駿河区弥生町6-1 参加人数と参加者の属性：教育委員会関係1人、学校関係者1人、一般企業人12人、 院生20人、学部生1人、専任教員10人

## テーマ：「飽くなき挑戦」 ―多様な生き方に触れ、自らを問い直す―

リソースパーソン（講師）伊江 昌子 氏 NHK Eテレ「0655」「2355」プロデューサー  
中村 大航 氏 ガイアフロ（株）静岡蒸溜所代表  
八木 邦明 氏 （社）シツクリ PROJECT 理事

「時代の変化に対応できる子どもたちに必要な資質・能力とは」、「これからの地域社会を担う人材育成はどうあるべきか」、こうした教育課題に対し、指導者たる教師自身に必要な資質と地域社会の役割を考えるために企画した教育関係者と地域の企業人との合同研修会である。常に探究心をもち挑戦し続ける3人の講師をお招きし、各々の生き方に触れたり、立場の違う参加者同士で語り合ったりすることを通して、視野を広め、多様な物の見方・考え方を相互に学び合える機会となることを期待した。

## 内容：

【チェックイン】「お互いの存在を尊重する」「発見や意外な視点を楽しむ」等のグラウンドルールを確認した後、まずは、参加者が院生と企業人混成の3人グループとなり自己紹介等を行った。（写真①）

【3人の講師によるミニレク】3人の講師がそれぞれに10分間でこれまでの人生の歩みや紆余曲折の場面とその時の思いや決断について語ったりプレゼンをしたりした。伊江氏は番組プロデューサーに至る経緯や職への思い、中村氏は精密機械製造業からウイスキーづくりへの転職・起業した動機とこだわり、八木氏は校長職を辞してまで新たな教育づくりに挑戦することを決意したわけとその覚悟等を熱く語った。（写真②）

【サークル対話】参加者全体を3グループに分け、それぞれのグループに講師が1人入り、講師に対して更に聞きたいこと等を付箋に書いて渡しながらかしこ議論した。時間を区切り順次講師が入れ替わった。（写真③）

【チームでインタビュー】最初の3人グループで、インタビュアー、インタビューされる人、視聴者に分かれて「これまでの人生の中で自分が頑張ったこと」等を聴き合った。それぞれの役割をローテーションしながらお互いことを理解し、その人なりのよさを伝え合う場となった。

【内省の時間】伊江氏がファシリテーターとなり、これから挑戦したいこと等、自分の中に沸き上がった思いを静かにジャーナリングしていった。

【チェックアウト】3人の講師からのまとめのお話と参加者からの感想発表により会を閉じた。

## 成果：

事後アンケート結果は、「大変有意義だった」87%、「おおむね有意義だった」13%と高い評価を得ることができた。院生の感想からは、「企業の方と未来の教育について語ったことで人生観や教育観に厚みが増した」「金・時間・成果などを商売にされている方との討議は新鮮だった」「自分がいかに狭いコミュニティにいたのかがわかった」等、大いに刺激を受けたことがわかる。逆に企業の方からは「若い教員と語ることはとても有意義で元気をいただけた」「日本の将来のお役に立ちたいと思いました」「様々な場面の教育について考える機会をいただけてありがたかった」と、前向きに受け止められた感想が多く、双方から今後も継続してほしいという期待が寄せられた。

## アイデアや工夫したこと：

講師の人选（多様性）と内容についての事前打合せ

平日開催であったので、院生と企業人による混成小グループを編成するために、できるだけ多くの一般参加者を募りたくて各方面にチラシを配布したが、最終的には講師のネットワークが大きな力を発揮した。

コロナウイルスの感染防止対策を徹底し、受付時の検温と消毒、参加者間の距離確保、換気等に努めた。

<写真・図など>

①【チェックイン】（3人グループで自己紹介）



②【3人の講師によるミニレク】



③【サークル対話】

